

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

| | |
|--------------------|--|
| 教員氏名 | 中島 大之 |
| 主な担当科目 | 室内楽Ⅰ,室内楽Ⅰ②,室内楽Ⅱ,室内楽演習Ⅰ,室内楽演習Ⅱ①,室内楽演習Ⅱ②,実技グループレッスン[器楽Ⅱ①,器楽Ⅱ②] |
| シラバス | 次ページをご参照ください |
| 2022年の教育目標・授業に臨む姿勢 | 常に学生の目線に立ち、自己の日々向上を目指すことを方向づける。個人レッスンでは基礎練習の意味を理解させ、グローバルな演奏スタイルを学び、ホルンという楽器の特性からも、独奏のみならずオーケストラや室内楽などの合奏に適応できる能力を養う。そして、視野を広げ、音楽とは演奏者も聴衆も楽しむことが大切であるという意識を持たせる。 |
| 2022年の教育に関する自己評価 | 個人レッスンにおいて、基礎・エチュード・ソロ曲・オーケストラスタディという4つの柱を、個々の特性やモチベーションを鑑みながら、バランス良く実践することができたと考える。その中でも、独奏のみならず合奏に適応できる能力の向上という一大目標に主眼を置きながら、学生たちの視野を広げ、音楽に取り組む姿勢の方向づけにおいても一定の評価がなされたと考える。 |
| 2022年のFD活動に関する自己評価 | FD全体研修会においては、本学の教育に対する考え方、運営を含めた方向性を知る上で有意義なものであり、自己の中でその理解が深まっていると考える。学内組織でのFD研修会においても、同様に教員みなさんの考え方を知ることができた。 |
| 授業改善のために取り入れた研修内容 | 特になし。 |

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ

曜日時限

水 3時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 | |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|--------|----|------|
| | | | | 定期試験 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | | | 成果発表 |
| 演習 | 2～ | 前期 | 1 | 評価種別 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |
| | | | | 評価割合 | | | | | | |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導 |
| 第2回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第3回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第4回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第5回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第6回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第7回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第8回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第9回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第10回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第11回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第12回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第13回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第14回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第15回 | 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ） |
| 第16回 | |
| 第17回 | |
| 第18回 | |
| 第19回 | |
| 第20回 | |
| 第21回 | |
| 第22回 | |
| 第23回 | |
| 第24回 | |
| 第25回 | |
| 第26回 | |
| 第27回 | |
| 第28回 | |
| 第29回 | |
| 第30回 | |

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ

曜日時限

水 4時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 | |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|--------|----|------|
| | | | | 定期試験 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | | | 成果発表 |
| 演習 | 2～ | 前期 | 1 | 評価種別 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |
| | | | | 評価割合 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導 |
| 第2回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第3回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第4回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第5回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第6回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第7回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第8回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第9回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第10回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第11回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第12回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第13回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第14回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第15回 | 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ） |
| 第16回 | |
| 第17回 | |
| 第18回 | |
| 第19回 | |
| 第20回 | |
| 第21回 | |
| 第22回 | |
| 第23回 | |
| 第24回 | |
| 第25回 | |
| 第26回 | |
| 第27回 | |
| 第28回 | |
| 第29回 | |
| 第30回 | |

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ

曜日時限

水 3時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 | |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|--------|----|------|
| | | | | 評価種別 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | | | 成果発表 |
| 演習 | 2～ | 前期 | 1 | 評価割合 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導 |
| 第2回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第3回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第4回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第5回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第6回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第7回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第8回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第9回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第10回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第11回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第12回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第13回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第14回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第15回 | 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ） |
| 第16回 | |
| 第17回 | |
| 第18回 | |
| 第19回 | |
| 第20回 | |
| 第21回 | |
| 第22回 | |
| 第23回 | |
| 第24回 | |
| 第25回 | |
| 第26回 | |
| 第27回 | |
| 第28回 | |
| 第29回 | |
| 第30回 | |

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽 I

曜日時限

水 4時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|---------|-----|
| | | | | 定期試験 | | | | 授業内小テスト | |
| 演習 | 2～ | 前期 | 1 | 評価種別 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | |
| | | | | 評価割合 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 |
| | | | | | | | | | 100 |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
- 第2回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第3回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第4回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第5回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第6回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第7回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第8回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第9回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第10回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第11回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第12回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第13回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第14回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第15回 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ②

木管・金管B（弦管打演奏家Ⅰ）

曜日時限

水 4時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 定期試験 | | | | 授業内小テスト | |
| 演習 | 2～ | 通年 | 2 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 0 | 100 |
| | | | | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。①で修得した技術や知識を活かし、さらに協調性のあるアンサンブル能力を身につけることができる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導 |
| 第2回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第3回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第4回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第5回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第6回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第7回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第8回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第9回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第10回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第11回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第12回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第13回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第14回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第15回 | 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ） |
| 第16回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第17回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第18回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第19回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第20回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第21回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第22回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第23回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第24回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第25回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第26回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第27回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第28回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第29回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第30回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ） |

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
前期と後期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ②

木管・金管B

曜日時限

水 4時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト | |
| 演習 | 3～ | 通年 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。①で修得した技術や知識を活かし、さらに協調性のあるアンサンブル能力を身につけることができる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導 |
| 第2回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第3回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第4回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第5回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第6回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第7回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第8回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第9回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第10回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第11回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第12回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第13回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第14回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第15回 | 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ） |
| 第16回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第17回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第18回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第19回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第20回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第21回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第22回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第23回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第24回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第25回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第26回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第27回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第28回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第29回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第30回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ） |

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
前期と後期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ②

木管・金管A

曜日時限

水 3時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト | |
| 演習 | 3～ | 通年 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。①で修得した技術や知識を活かし、さらに協調性のあるアンサンブル能力を身につけることができる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導 |
| 第2回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第3回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第4回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第5回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第6回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第7回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第8回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第9回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第10回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第11回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第12回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第13回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第14回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第15回 | 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ） |
| 第16回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第17回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第18回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第19回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第20回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第21回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第22回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第23回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第24回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第25回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第26回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第27回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第28回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第29回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第30回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ） |

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
前期と後期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ②

木管・金管A（弦管打演奏家Ⅰ）

曜日時限

水 3時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 定期試験 | | | | 授業内小テスト | |
| 演習 | 2～ | 通年 | 2 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 0 | 100 |
| | | | | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。①で修得した技術や知識を活かし、さらに協調性のあるアンサンブル能力を身につけることができる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導 |
| 第2回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第3回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第4回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第5回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第6回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第7回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第8回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第9回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第10回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第11回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第12回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第13回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第14回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第15回 | 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ） |
| 第16回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第17回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第18回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第19回 | 室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第20回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第21回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第22回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第23回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第24回 | 室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第25回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第26回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第27回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第28回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第29回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第30回 | 室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ） |

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
前期と後期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽 II

曜日時限

水 3時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 | |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|--------|----|------|
| | | | | 評価種別 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | | | 成果発表 |
| 演習 | 2～ | 後期 | 1 | 定期試験 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導 |
| 第2回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第3回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第4回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第5回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第6回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第7回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第8回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第9回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第10回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第11回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第12回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第13回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第14回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第15回 | 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ） |
| 第16回 | |
| 第17回 | |
| 第18回 | |
| 第19回 | |
| 第20回 | |
| 第21回 | |
| 第22回 | |
| 第23回 | |
| 第24回 | |
| 第25回 | |
| 第26回 | |
| 第27回 | |
| 第28回 | |
| 第29回 | |
| 第30回 | |

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽 II

曜日時限

水 4時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|--------|-----|
| | | | | 定期試験 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | | |
| 演習 | 2～ | 後期 | 1 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導 |
| 第2回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第3回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第4回 | 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第5回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第6回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第7回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第8回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第9回 | 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第10回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる） |
| 第11回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う） |
| 第12回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める） |
| 第13回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ） |
| 第14回 | 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す） |
| 第15回 | 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ） |
| 第16回 | |
| 第17回 | |
| 第18回 | |
| 第19回 | |
| 第20回 | |
| 第21回 | |
| 第22回 | |
| 第23回 | |
| 第24回 | |
| 第25回 | |
| 第26回 | |
| 第27回 | |
| 第28回 | |
| 第29回 | |
| 第30回 | |

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽 II

曜日時限

水 3時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 | |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|---------|----|-----|
| | | | | 定期試験 | | | | 授業内小テスト | | |
| 演習 | 2～ | 後期 | 1 | 評価種別 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | | |
| | | | | 評価割合 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
- 第2回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第3回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第4回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第5回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第6回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第7回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第8回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第9回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第10回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第11回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第12回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第13回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第14回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第15回 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽 II

曜日時限

水 4時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|---------|-----|
| | | | | 定期試験 | | | | 授業内小テスト | |
| 演習 | 2～ | 後期 | 1 | 評価種別 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | |
| | | | | 評価割合 | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 |
| | | | | | | | | | 100 |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
- 第2回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第3回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第4回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第5回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第6回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第7回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第8回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第9回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第10回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第11回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第12回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第13回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第14回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第15回 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽演習 I

木管・金管 A

曜日時限

水 3時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 定期試験 | | | | 授業内小テスト | |
| 演習 | 1～ | 前期 | 1 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 0 | 100 |
| | | | | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
- 第2回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第3回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第4回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第5回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第6回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第7回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第8回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第9回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第10回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第11回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第12回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第13回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第14回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第15回 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽演習 I

木管・金管B

曜日時限

水 4時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 定期試験 | | | | 授業内小テスト | |
| 演習 | 1～ | 前期 | 1 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 0 | 100 |
| | | | | 50 | 0 | 0 | 50 | 0 | |

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
- 第2回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第3回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第4回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第5回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第6回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第7回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第8回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第9回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第10回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第11回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第12回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第13回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第14回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第15回 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽演習 II

木管・金管 A

曜日時限

水 3時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 定期試験 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト | |
| 演習 | 1～ | 後期 | 1 | 80 | 0 | 0 | 20 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

アンサンブルの基本（演奏法、コミュニケーションの取り方、練習曲目の選択の仕方、練習方法など）から高度な演奏レベルとアンサンブルの応用（自主的創造力と技術を充分に生かす、高度な作品の演奏、リーダーとしてのコミュニケーションの取り方など）までを、個々の学生の演奏レベルに応じてきめ細かく対応して指導する。

学修成果

自発的にアンサンブルでの創造活動ができ、メンバー同士のコミュニケーションをとりより高度なアンサンブル力を持つことができる。高度なアンサンブルでの創造活動ができ、メンバー同士のコミュニケーションをとり、プロ奏者としてアンサンブルをリードしていける。アンサンブルコンサートを実際に演奏出来るだけの充分な演奏技術を身につけることができる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽に対する心構えや指導方針の説明（選曲、練習法など） |
| 第2回 | それぞれのレベルの学生やグループにあった選曲による最初の作品の研究①（楽曲分析） |
| 第3回 | それぞれのレベルの学生やグループにあった選曲による最初の作品の研究②（実践演習） |
| 第4回 | それぞれのレベルの学生やグループにあった選曲による最初の作品の研究③（より高度な技術を修得する） |
| 第5回 | それぞれのレベルの学生やグループにあった選曲による最初の作品の研究④（作品のまとめ） |
| 第6回 | 古典的作品の理解と演奏の研究①（楽曲分析） |
| 第7回 | 古典的作品の理解と演奏の研究②（実践演習） |
| 第8回 | 古典的作品の理解と演奏の研究③（より高度な技術を修得する） |
| 第9回 | 古典的作品の理解と演奏の研究④（作品のまとめ） |
| 第10回 | アンサンブルの基礎レパートリーになる作品 1 の理解と研究①（楽曲分析） |
| 第11回 | アンサンブルの基礎レパートリーになる作品 1 の理解と研究②（実践演習－基礎） |
| 第12回 | アンサンブルの基礎レパートリーになる作品 1 の理解と研究③（実践演習－発展） |
| 第13回 | アンサンブルの基礎レパートリーになる作品 1 の理解と研究④（より高度な技術を修得する） |
| 第14回 | アンサンブルの基礎レパートリーになる作品 1 の理解と研究⑤（作品のまとめ） |
| 第15回 | 成果発表に向けての研究（後期のまとめ） |
| 第16回 | |
| 第17回 | |
| 第18回 | |
| 第19回 | |
| 第20回 | |
| 第21回 | |
| 第22回 | |
| 第23回 | |
| 第24回 | |
| 第25回 | |
| 第26回 | |
| 第27回 | |
| 第28回 | |
| 第29回 | |
| 第30回 | |

履修上の注意

アンサンブルグループでの履修となる。原則として履修者がグループメンバーの過半数以上を占めること。原則として欠席者がいる場合は、授業は行わない。

■ **授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。プロのアンサンブルの演奏会を鑑賞すること。専門楽器以外のアンサンブルの演奏会や録音などに興味を持って鑑賞すること。

後期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ **教科書・参考書**

楽譜は、本学の蔵書を使用、もしくは、個人で用意すること。

科目名－クラス名

室内楽演習 II

木管・金管 B

曜日時限

水 4時限

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 | |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|--------|----|------|
| | | | | 定期試験 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | | | 成果発表 |
| 演習 | 1～ | 後期 | 1 | 定期試験 | 80 | 0 | 0 | 20 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

アンサンブルの基本（演奏法、コミュニケーションの取り方、練習曲目の選択の仕方、練習方法など）から高度な演奏レベルとアンサンブルの応用（自主的創造力と技術を充分に生かす、高度な作品の演奏、リーダーとしてのコミュニケーションの取り方など）までを、個々の学生の演奏レベルに応じてきめ細かく対応して指導する。

学修成果

自発的にアンサンブルでの創造活動ができ、メンバー同士のコミュニケーションをとりより高度なアンサンブル力を持つことができる。高度なアンサンブルでの創造活動ができ、メンバー同士のコミュニケーションをとり、プロ奏者としてアンサンブルをリードしていける。アンサンブルコンサートを実際に演奏出来るだけの十分な演奏技術を身につけることができる。

授業展開と内容

| | |
|------|--|
| 第1回 | 室内楽に対する心構えや指導方針の説明（選曲、練習法など） |
| 第2回 | それぞれのレベルの学生やグループにあった選曲による最初の作品の研究①（楽曲分析） |
| 第3回 | それぞれのレベルの学生やグループにあった選曲による最初の作品の研究②（実践演習） |
| 第4回 | それぞれのレベルの学生やグループにあった選曲による最初の作品の研究③（より高度な技術を修得する） |
| 第5回 | それぞれのレベルの学生やグループにあった選曲による最初の作品の研究④（作品のまとめ） |
| 第6回 | 古典的作品の理解と演奏の研究①（楽曲分析） |
| 第7回 | 古典的作品の理解と演奏の研究②（実践演習） |
| 第8回 | 古典的作品の理解と演奏の研究③（より高度な技術を修得する） |
| 第9回 | 古典的作品の理解と演奏の研究④（作品のまとめ） |
| 第10回 | アンサンブルの基礎レパートリーになる作品 1 の理解と研究①（楽曲分析） |
| 第11回 | アンサンブルの基礎レパートリーになる作品 1 の理解と研究②（実践演習－基礎） |
| 第12回 | アンサンブルの基礎レパートリーになる作品 1 の理解と研究③（実践演習－発展） |
| 第13回 | アンサンブルの基礎レパートリーになる作品 1 の理解と研究④（より高度な技術を修得する） |
| 第14回 | アンサンブルの基礎レパートリーになる作品 1 の理解と研究⑤（作品のまとめ） |
| 第15回 | 成果発表に向けての研究（後期のまとめ） |
| 第16回 | |
| 第17回 | |
| 第18回 | |
| 第19回 | |
| 第20回 | |
| 第21回 | |
| 第22回 | |
| 第23回 | |
| 第24回 | |
| 第25回 | |
| 第26回 | |
| 第27回 | |
| 第28回 | |
| 第29回 | |
| 第30回 | |

履修上の注意

アンサンブルグループでの履修となる。原則として履修者がグループメンバーの過半数以上を占めること。原則として欠席者がいる場合は、授業は行わない。

■ **授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。プロのアンサンブルの演奏会を鑑賞すること。専門楽器以外のアンサンブルの演奏会や録音などに興味を持って鑑賞すること。

後期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ **教科書・参考書**

楽譜は、本学の蔵書を使用、もしくは、個人で用意すること。

科目名－クラス名

器楽Ⅱ①

曜日時限

実技

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | 定期試験 | | | | その他の試験 | 合計 |
|-------|------|-----|-----|------|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト | |
| 実技・実習 | 1～ | 通年 | 2 | | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

専攻する器楽を通じて、演奏に必要な知識や技術を身に付ける。また楽器演奏の基礎能力の向上を目指し、演奏の喜びや成長の経験を各々のコースでの学修に反映させることを目標とする。

学修成果

学修者のレベルに応じた課題に取り組む事により、楽器演奏の基礎能力を高める事が出来る。楽器演奏を通じて、読譜力やソルフェージュ能力を高め、各々の専攻実技（専攻コース）への応用力を養うことが出来る。

授業展開と内容

| | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション（年間計画、レッスンの進め方について、練習方法等） |
| 第2回 | 楽器の扱い方（組み立て、片付け、整備等） |
| 第3回 | 美しい音色を理解し、しっかりと音を出す |
| 第4回 | 安定した音を出すための練習法（ロングトーン等） |
| 第5回 | 正しい指使いを理解し、演奏可能な音域を広げる（ド～ソ） |
| 第6回 | 音階の学修① 各楽器のハ長調（1オクターブ） |
| 第7回 | 音階の学修② 各楽器のハ長調（さらに広い音域への取り組み） |
| 第8回 | 音階の学修③ 各楽器のハ長調（スケール練習の方法） |
| 第9回 | 簡単な旋律の演奏① 基礎エチュードを用いて |
| 第10回 | 簡単な旋律の演奏② 童謡等の楽曲を用いて |
| 第11回 | 正しい音程を出すための練習 |
| 第12回 | 前期試験共演者とのアンサンブル① 遅いテンポから始めてタイミングを合わせる |
| 第13回 | 前期試験共演者とのアンサンブル② テンポを速め、安定した演奏を目指す |
| 第14回 | 前期試験共演者とのアンサンブル③ 音楽性豊かな表現を目指す |
| 第15回 | 前期のまとめ、実技試験に向けて演奏の総仕上げを行う |
| 第16回 | 前期の復習、後期の目標（試験曲等）設定 |
| 第17回 | 表現方法について① アーティキュレーション（スラー、スタッカート） |
| 第18回 | 表現方法について② ディナーミク（強弱法） |
| 第19回 | 簡単な楽曲の演奏① 譜読み |
| 第20回 | 簡単な楽曲の演奏② テクニックの安定について |
| 第21回 | 簡単な楽曲の演奏③ 音楽表現について |
| 第22回 | 表現力豊かな演奏① アーティキュレーションの表現 |
| 第23回 | 表現力豊かな演奏② ディナーミクの幅を広げる |
| 第24回 | 表現力豊かな演奏③ アゴーギク（速度法）について |
| 第25回 | 後期試験演奏作品の分析① 作品の時代背景 |
| 第26回 | 後期試験演奏作品の分析② 作曲者の研究 |
| 第27回 | 後期試験演奏作品の分析③ 作品のスタイル（形式）について |
| 第28回 | 後期試験共演者とのアンサンブル① 遅いテンポから始めてタイミングを合わせる |
| 第29回 | 後期試験共演者とのアンサンブル② テンポを速め、安定した演奏を目指す |
| 第30回 | 後期試験共演者とのアンサンブル③ 音楽性豊かな表現を目指し、演奏の総仕上げを行なう |

履修上の注意

個々の状況に応じてレッスンを進めていくため、上記の授業計画は必ずしも学修の順序とは限らない。実技試験での伴奏の有無は問わない。2016年度以前入学者対象科目。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備すること。楽器演奏の修得には練習の反復と継続が必須である。授業外の時間を活用し、日々個人練習の時間を確保すること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。楽譜は著作物であるため安易なコピーを慎むこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅱ②

曜日時限

実技

担当教員

中島 大之

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|-------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト | |
| 実技・実習 | 2～ | 通年 | 2 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

専攻する楽器演奏における基礎能力を安定させ、より高度な技術を身に付ける事を目指し、演奏の喜びや成長の経験を各々のコースでの学修に反映させることを目標とする。

学修成果

学修者のレベルに応じた課題に取り組む事により、楽器演奏において、より高度な技術を身に付けることが出来る。器楽演奏を通じて、読譜力やソルフェージュ能力をさらに高め、各々の専攻実技（専攻コース）への応用力を養うことが出来る。

授業展開と内容

| | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション（年間計画、レッスンの進め方について、練習方法等） |
| 第2回 | 楽器の扱い方の確認 |
| 第3回 | 美しい音色作り |
| 第4回 | 基礎練習法（タンギング練習等） |
| 第5回 | 演奏可能な音域をさらに広げる |
| 第6回 | 音階の学修① 調号2つまでの長短調（1オクターブ） |
| 第7回 | 音階の学修② 調号2つまでの長短調（さらに広い音域への取り組み） |
| 第8回 | 音階の学修③ 調号2つまでの長短調（スケール練習の方法） |
| 第9回 | 簡単な旋律の演奏① 初級エチュードを用いて |
| 第10回 | 簡単な旋律の演奏② 歌曲等の楽曲を用いて |
| 第11回 | 正しい音程を出すための練習 |
| 第12回 | 前期試験共演者とのアンサンブル① 遅いテンポから始めてタイミングを合わせる |
| 第13回 | 前期試験共演者とのアンサンブル② テンポを速め、安定した演奏を目指す |
| 第14回 | 前期試験共演者とのアンサンブル③ 音楽性豊かな表現を目指す |
| 第15回 | 前期のまとめ、実技試験に向けて演奏の総仕上げを行う |
| 第16回 | 前期の復習、後期の目標（試験曲等）設定 |
| 第17回 | 表現方法について① アーティキュレーション（様々なアクセント） |
| 第18回 | 表現方法について② 幅広いダイナミック（強弱法） |
| 第19回 | 簡単な楽曲の演奏① 譜読み |
| 第20回 | 楽曲の演奏② テクニックの向上について |
| 第21回 | 楽曲の演奏③ 豊かな音楽表現について |
| 第22回 | 表現力豊かな演奏① アーティキュレーションの効果的な表現 |
| 第23回 | 表現力豊かな演奏② 安定したピアノ、豊かなフォルテのための息使い |
| 第24回 | 表現力豊かな演奏③ アゴーギク（速度法）の実践 |
| 第25回 | 後期試験演奏作品の分析① 作品の時代背景 |
| 第26回 | 後期試験演奏作品の分析② 作曲者の研究 |
| 第27回 | 後期試験演奏作品の分析③ 作品のスタイル（形式）について |
| 第28回 | 後期試験共演者とのアンサンブル① 曲の始め方、終わり方とその合図 |
| 第29回 | 後期試験共演者とのアンサンブル② ユニゾンや対旋律におけるバランス作り |
| 第30回 | 後期試験共演者とのアンサンブル③ 他者と同期した音楽表現の研究、演奏の総仕上げ |

履修上の注意

個々の状況に応じてレッスンを進めていくため、上記の授業計画は必ずしも学修の順序とは限らない。実技試験にでの伴奏の有無は問わない。2016年度以前入学者対象科目。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備すること。楽器演奏の修得には練習の反復と継続が必須である。授業外の時間を活用し、日々個人練習の時間を確保すること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。楽譜は著作物であるため安易なコピーを慎むこと。

2022 年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書
教員コード：2115 教員名：中島 大之

1) 評価結果に対する所見

全履修者 157 名に対し、回答者が 11 名ということで 10%にも満たない回答率では、残念ながらこの授業評価アンケートの意味を成していないと言える。一番考えられる理由は、アンケートを行った時期が、もう既に多くの履修生にとってオーケストラ授業への乗り番等がなくなり、授業への直接参加がされていない時期であったということである。毎回全ての履修生が授業に関わっているわけではないというこの授業の特殊性がこの度の結果に反映されたものと考えられる。ただ、その中でも Q10 の満足度に対する質問に対する結果は、少人数ながら全体平均を大きく下回るものであり、特筆すべきことと思われるが、こちらも先述したこの授業の特殊性が影響しているものと考えられる。パートにより担当教員がその曲目の都度、学生の乗り番を決めて授業が行われるという形態をとっているが、優秀な学生が重要なパートを任されるという図式が、全ての学生に対する満足度とは方向性の異なるものであるということが理由の一つとして考えられる。

2) 要望への対応・改善方策

当授業では、同時進行で AB 二つのオーケストラにおいて学生が演奏経験を積み、合奏における技術を学ぶのであるが、履修の学生全てがそれぞれの学生のレベルに応じた学びができるように、曲目の選定を慎重に行い、担当教員は学生の乗り番に十分に配慮してバランスの良い授業を行うように考えていきたい。また、この授業に取り組む学生の姿勢として、新しい楽曲に対する理解と準備を怠らず、必ず十分に予習をして授業に向かうことが必須であるが、その点において学生たちにより一層の指導を行っていきたい。

3) 今後の課題

あらゆる連絡ツールを擁して全ての履修者に情報が行き渡り、当アンケートの回答率が上がるように万全を尽くしたい。

以 上